

2013年度 第3四半期決算説明会

創立80周年にあたって

代表取締役社長・COO
中嶋 成博

2014年1月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

日頃はお世話になっております。

また、本日は私共の決算説明会にお集まりいただき有難うございます。

既にご案内のことと存じますが、富士フイルムホールディングス株式会社は、1月20日に創立80周年を迎えました。創立以来これまで幾多の試練がありましたが、皆様の日頃よりの数々のご支援・ご鞭撻により、こうして80周年を迎えることができました。

改めて御礼申し上げます。

お手元の決算短信にもありますとおり、お蔭様で当第3四半期までの当社の業績は当初の想定をやや上回るペースで進捗しておりますし、通期の見通しもボトムラインの当期純利益では、当初予想を上回る見込みでございます。

これまでに実施してきた成長戦略が確実に成果を上げてきていると実感する次第ですが、更にこの成長へのモーメンタムを加速していくために、医薬品における新薬開発の加速、デジタルカメラの抜本的なコスト改善等、来期に向かっての重点施策を、残りの第4四半期にて実施してまいります。

決算及び通期業績見通しにつきましては、後程、助野より詳細をご説明させていただきます。

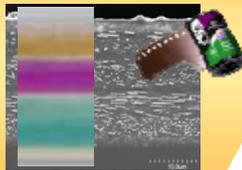
私の方からは、創立80周年にあたって、今後当社がさらに成長するための取り組みについて、もう少しご説明させていただきます。

80年の振り返り

イメージング



写真技術



ドキュメント



インフォメーション



時代の変化にあわせ、写真技術を活かして事業領域を拡大

当社は1934年、写真フィルムの国産化を目指し、富士写真フイルムとして創立しました。写真フィルムを製造するには非常に高度な技術が必要であり、当社はこの写真フィルムの研究開発を独自に行う中で、世界トップレベルの高い技術力を身に付けました。また、早い段階から積極的に海外にも展開し、1958年にアメリカとブラジルに事務所を設立したことを皮切りに、世界各国に現地法人や代理店を設立し、世界中にFUJIFILMブランドの商品を拡販してきました。

これまでを振り返ると、競合他社との競争やデジタル化の波など、多くの荒波に揉まれてきましたが、いち早く時代の変化に対応し、写真技術を様々な領域に展開させることで、事業拡大を図り、今年80周年を迎えることができました。

さらなる成長を目指して

成長を実現する3本の柱

1 現場力の強化

2 グローバル展開の加速

3 新規事業の創出

3

それでは、今後はどのように成長を実現していくのか。

今後も当社が持続的な成長を実現していくためには、この3つの柱が重要だと考えています。

まず、全ての基本となる現場力の強化です。

ビジネスに成功するには、お客様のニーズを把握し、それにマッチする商品を開発、適正なコストで生産、販売する、というサイクルをまわす必要があります。このサイクルを支えるのは、R&D、生産、販売・マーケティング、間接部門といった各現場であり、この現場が重要だと考えています。

私が社長に就任して以来、様々な部署の従業員と対話するなど、この現場力を向上する「G-up」活動に取り組んできましたが、まだ効率化できる部分、より強化できる部分は多々あると感じています。今後も継続的にこの「G-up」活動を推進することで、ビジネスの根幹に関わる現場力を強化していきます。

次にグローバル展開の加速です。

今年度の当社の海外売上高比率は約60%ですが、グローバルカンパニーとしては、海外売上高比率を80%超まで高めたいと考えています。現地法人の組織力を強化し、現地のニーズをよりの確に把握、各市場のニーズにマッチした製品をタイムリーに投入することで、グローバル化を加速させます。

そして、3つ目は新規事業の創出です。

持続的な成長を実現するためには、時代の変化にマッチした事業を創出し続ける必要があります。そのための取り組みについて、ご説明いたします。

新規事業の創出

Open Innovation Hub

ビジネスパートナーと共に
未来を切り拓く
新しい価値“創造”拠点



高機能材料開発本部

「小さく・早く・安く・多く」をキーワードに
新規高機能材料ビジネスを創出



社外との連携を強化することで、スピーディにニーズとシーズを融合
新たな価値を提供する製品・サービスの創出へ

社会の潮流を見ると、ニーズの多様化が進み、市場・技術の変化のスピードもますます速くなっています。このような社会で成長を実現するには、写真フィルムやフラットパネルディスプレイ材料のような、規模が大きくて絶対的な優位性を持つ商品ばかりを狙うのではなく、規模は小さくとも、それぞれの市場のニーズにマッチし、高い利益率を持つ商品を複数生み出していく必要があります。

そのためには、まずはこれらの多様化したニーズ、またはビジネスパートナー自身が気付いていない潜在的なニーズを的確につかみ、そのニーズと当社のシーズを組み合わせ、新しい価値を持つ商品やソリューションを提供できる会社にならなくてはなりません。

当社は今まで、どちらかというと自前主義の風潮が強くありましたが、社外のビジネスパートナーとの連携をさらに強化し、ビジネスパートナーのニーズ、技術、ノウハウと、当社のリソースをよりスピーディ、かつ的確にマッチさせるための新たな取り組みとして、今回、オープンイノベーションハブを開設いたしました。

オープンイノベーションハブは、社外のビジネスパートナーのニーズと、当社のシーズを組み合わせ、新しい価値を共に創りあげる場です。具体的には、これまで当社が開発してきた優れた材料・製品を支える技術や、開発中の新しい技術・材料・製品などに直接触れていただく場を設けるとともに、対話しやすい環境を整備することで、ビジネスパートナーに画期的で新しい製品・技術・ソリューションを提供する施設です。

また、これに先駆けて昨年6月には、高機能材料開発本部も設置しています。

これは、「小さく・早く・安く・多く」をキーワードに、市場や研究所、事業部などに埋もれているニーズ・シーズ・アイデアなどを組み合わせ、製品や事業ごとに全社横断的なプロジェクトチームを結成し、スピーディに事業化を推進する組織です。

この2つの取り組みを中心にビジネスパートナーとの連携を強化することで、当社は新たなビジネスチャンスを確実につかみ取り、利益貢献できる製品・サービス・事業を生み出していきます。

新しいコーポレートスローガンの策定

FUJIFILM
Value from Innovation

80th
Anniversary

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

わたしたちは、世界中のお客様の真のニーズを徹底的に追求します。

独自の技術、世界中から集まる人・知恵・技術をオープンかつスピーディに融合し、

柔軟な発想でイノベーションを起こしていきます。

5

そして、このような会社へと生まれ変わっていく中で、当社が目指すべき将来の姿を示すため、今回、新たなコーポレートスローガン「Value from Innovation」を定めました。

これは、当社が社会に優れた価値を与える革新的な技術・製品・サービスを生み出し続け、お客様の明日のビジネスや生活の可能性を拡げる力になるという、お客様への約束であると共に、当社自身が社内外の知恵や技術を広く集め、イノベーションを起こしていくという宣言です。

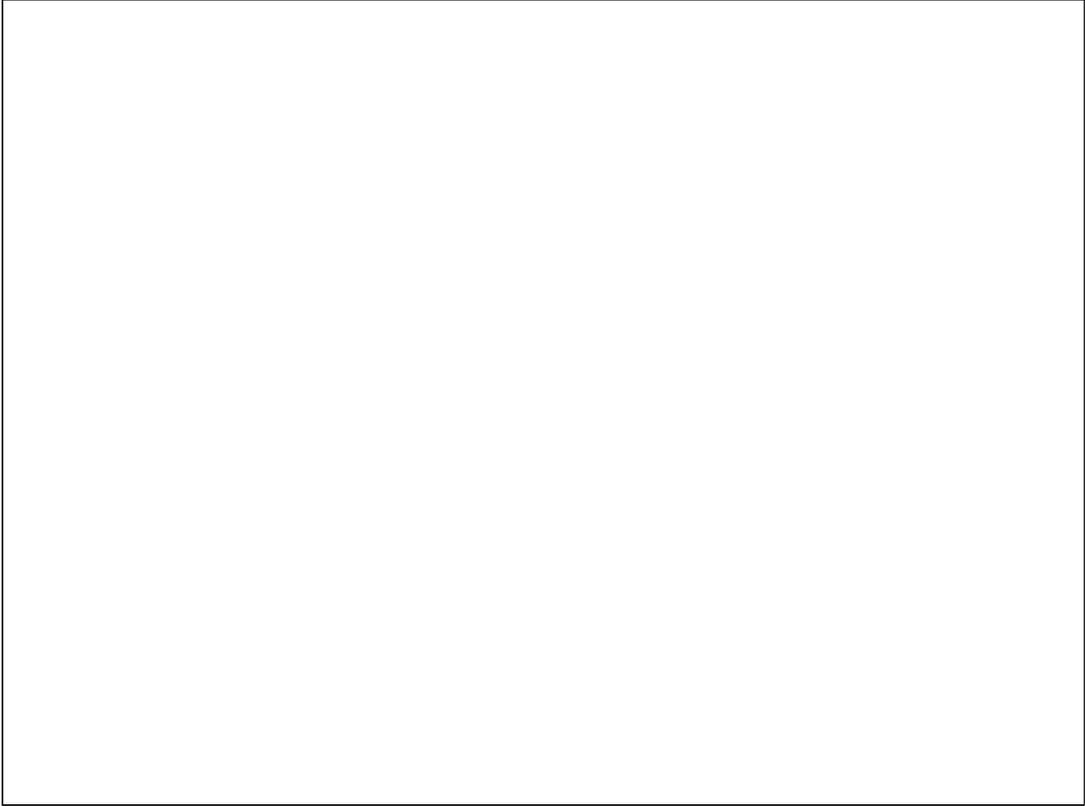
当社は、今後も本スローガンの下、不断のイノベーションを通じて将来にわたって成長し続けます。

そして、革新的で優れた価値を社会に提供し続けていきます。

本日ご出席いただいた皆さまにも、当社のさらなる成長にご期待いただければ、と思います。

私からは、以上となります。

引き続き、助野執行役員より、2013年度第3四半期の業績概要について、ご説明いたします。



2013年度 第3四半期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2014年1月30日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

2013年度第3四半期 業績 (2013年4月～2013年12月)

(単位:億円)

	2012年度 9ヵ月累計	2013年度 9ヵ月累計	対前年度
売上高	16,112 100.0%	17,744 100.0%	1,632 +10.1%
営業利益	654 4.1%	996 5.6%	342 +52.4%
税金等調整前 四半期純利益	628 3.9%	1,142 6.4%	514 +81.7%
当社株主帰属 四半期純利益	288 1.8%	625 3.5%	337 +116.6%
1株当たり 当社株主帰属 四半期純利益	59.89円	129.68円	69.79円
為替 :米ドル :ユーロ	80円 102円	99円 132円	19円安 30円安

*営業利益 増減要因(対前年度) 為替: +301億円、原材料: -15億円

8

日頃お世話になっております。助野でございます。
私から、2013年度第3四半期業績について、詳細をご説明させていただきます。

2013年度第3四半期は、
メディカルシステムやドキュメントが好調だったことや、
為替円安の効果で、
連結売上高は前年比10.1%増の1兆7,744億円、
営業利益は、前年比52.4%増の996億円の増収増益となりました。

加えて為替差損益が改善したこと等により、
税金等調整前四半期純利益は、前年比81.7%増の1,142億円、
当社株主帰属四半期純利益は、前年比116.6%増の625億円で、
1株当たりの当社株主帰属四半期純利益は、129円68銭となりました。

第3四半期 セグメント別:連結売上高/営業利益

(単位:億円)

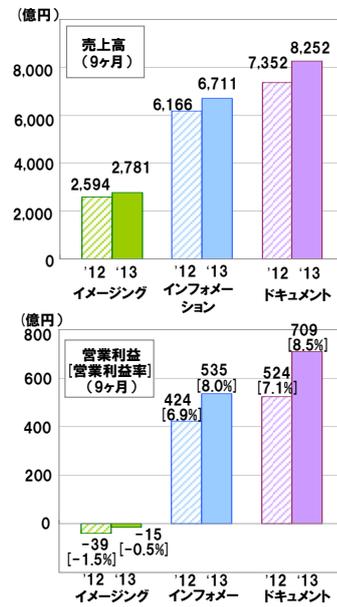
売上高	9ヵ月累計		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	2,594	2,781	187 (+7.2%)
インフォメーション	6,166	6,711	545 (+8.8%)
ドキュメント	7,352	8,252	900 (+12.2%)
合計	16,112	17,744	1,632 (+10.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益	9ヵ月累計		対前年度
	2012年度	2013年度	
イメージング	-39	-15	24 (赤字縮小)
インフォメーション	424	535	111 (+26.2%)
ドキュメント	524	709	185 (+35.3%)
全社/連結調整	-255	-233	22
合計	654	996	342 (+52.4%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリステートしています。



続いて、セグメント別の状況についてご説明します。

イメージングソリューション部門の売上高は、前年比7.2%増の2,781億円、営業損失は15億円となりました。

インフォメーションソリューション部門の売上高は、前年比8.8%増の6,711億円、営業利益は前年比26.2%増の535億円となりました。

ドキュメントソリューション部門の売上高は、前年比12.2%増の8,252億円、営業利益は前年比35.3%増の709億円となりました。

第3四半期 セグメント別 概況

(単位:億円)

■ イメージング ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
2,781	187 (+7.2%)	-15	24 (赤字縮小)

- ・ フォトイメージングでは、インスタントカメラの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスの拡大で、売上が増加。
- ・ 電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が継続し、売上が減少。Xシリーズをはじめとする高級機種の販売は好調に推移。
- ・ 光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズやプロジェクター用レンズなどの販売も好調に推移し、売上が大幅に増加。

フォトイメージングが好調に推移したことや、
為替円安、コスト削減効果などにより
増収・損益改善

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューション へ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

10

まずイメージング ソリューション部門についてご説明します。

フォトイメージングでは、昨年9月に発売した新製品「『チェキ』instax mini90ネオクラシック」を始めとしたインスタントカメラの販売が好調であったことや、「Year Album」などの付加価値プリントビジネスが拡大し、売上が増加しました。

電子映像では、全世界的なコンパクトデジタルカメラの需要減少が継続しており、売上が減少したものの、「FUJIFILM X-E2」「FUJIFILM X100S」などのXシリーズをはじめとする高級機種の販売は、好調に推移しました。

光学デバイスでは、スマートフォン用カメラモジュールの販売が大幅に増加したことに加え、テレビカメラ用レンズやプロジェクター用レンズなどの販売も好調に推移したことにより、売上が大幅に増加しました。

この結果、光学・電子映像事業合計で、売上が増加しました。

イメージング ソリューション部門は、コンパクトデジタルカメラの需要減少の影響を受けたものの、インスタントカメラなどのフォトイメージングが好調だったことや、為替円安、コスト削減効果などにより増収・損益改善しました。

第3四半期 セグメント別 概況

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	前年比	営業利益	前年比
6,711	545 (+8.8%)	535	111 (+26.2%)

- ・メディカルシステムでは、成長領域である医用画像情報システムや内視鏡など、事業全体で販売が好調に推移し売上が増加。
医薬品は富山化学や富士フィルムファーマなどの販売が伸び売上が増加。
ヘルスケア全体では、売上が大幅に増加。
- ・フラットパネルディスプレイ材料は、IT機器の需要低迷の影響により、WVフィルムの販売が減少したものの、北米や中国でのテレビの販売が好調だったことなどにより、VA用フィルム、IPS用フィルムの販売が堅調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、CTPプレートの販売が堅調に推移したことや、為替の円安効果により売上が大幅に増加。
- ・産業機材ではタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの販売が堅調に推移。
電子材料、記録メディアも売上が増加。

ヘルスケア等が好調だったことや、
為替円安の効果もあり、増収増益

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

11

続いてインフォメーション ソリューション部門です。

ヘルスケアでは、
メディカルシステムの成長領域である医用画像情報システムや内視鏡をはじめとして、事業全体で販売が好調に推移しました。
医薬品は、富山化学の「ゾシン」の販売が引き続き好調だったことや、富士フィルムファーマにおいて、バイエル薬品の先発薬の販売が堅調に推移したことなどにより、売上が増加しました。
この結果、ヘルスケア全体では、売上が大幅に増加しました。

フラットパネルディスプレイ材料は、
IT機器の需要が低迷している影響でWVフィルムの販売が減少したものの、北米や中国でのテレビの販売が好調だったことにより、VA用フィルム及びIPS用フィルムの販売が堅調に推移しました。

グラフィックシステムでは、CTPプレートの販売が堅調に推移したことや、為替の円安効果により、売上が大幅に増加しました。

産業機材では、工業用X線フィルムの販売が好調に推移したことに加え、新規高機能材料のタッチパネル用センサーフィルム「エクスクリア」などの販売が堅調に推移しました。
また電子材料、記録メディアの売上も増加しました。

インフォメーション ソリューション部門は、
ヘルスケア等が好調だったことや、為替円安の効果もあり、増収増益となりました。

第3四半期 セグメント別 概況

(単位:億円)

■ ドキュメント ソリューション

売上高	前年比	営業利益	前年比
8,252	900 (+12.2%)	709	185 (+35.3%)

- ・国内、アジア・オセアニア地域及び米国ゼロックス社向け輸出のいずれも売上が増加。
- ・オフィスプロダクトは、全ての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機も増加。
- ・オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でカラー機の販売が好調に推移し、販売台数が増加。
- ・プロダクションサービスは、国内、アジア・オセアニア地域および米国ゼロックス社向け輸出のいずれもカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加。
- ・グローバルサービスは、国内及びアジア・オセアニア地域において売上が増加。
- ・売上の増加とともに、製造原価改善及び経費効率化も寄与し増益。

全ての地域において販売が堅調に推移し
増収増益

12

ドキュメント ソリューション部門については、国内、アジア・オセアニア地域、および米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいても売上が増加しました。

オフィスプロダクトは、すべての地域においてカラー機の販売台数が増加し、アジア・オセアニア地域ではモノクロ機の販売台数も増加しました。

オフィスプリンターは、アジア・オセアニア地域でカラー機が好調に推移し、販売台数が増加しました。

プロダクションサービスは、国内、アジア・オセアニア地域、および米国ゼロックス社向け輸出のいずれにおいてもカラー・オンデマンド・パブリッシング・システムの販売が好調で、全体で販売台数が増加しました。

グローバルサービスは、国内およびアジア・オセアニア地域において売上が増加しました。

売上が増加したことに加え、製造原価改善および経費効率化も寄与し、ドキュメント ソリューション部門は増収増益となりました。

連結貸借対照表

(単位:億円)

	12年度 末	13年9月 末	13年12月 末	対12年度 末		12年度 末	13年9月 末	13年12月 末	対12年度 末
現金 及び現金同等物	4,454	5,149	5,557	1,103	長短社債 及び借入金	3,583	3,723	3,797	214
受取債権	5,889	5,649	5,959	70	支払債務	2,510	2,345	2,457	-53
棚卸資産	3,999	4,032	4,277	278	その他流動 固定負債	4,255	4,162	4,186	-69
有価証券 その他流動資産	1,271	1,493	1,550	279	負債計	10,348	10,230	10,440	92
流動資産計	15,613	16,323	17,343	1,730	株主資本計	18,689	19,346	20,276	1,587
有形固定資産	5,461	5,367	5,411	-50	非支配持分	1,559	1,627	1,697	138
営業権	4,122	4,152	4,254	132	純資産計	20,248	20,973	21,973	1,725
投資有価証券 その他資産	5,400	5,361	5,405	5	負債・純資産 合計	30,596	31,203	32,413	1,817
固定資産計	14,983	14,880	15,070	87					
資産合計	30,596	31,203	32,413	1,817					

(単位:円)

期末日 為替レート	12年度 末	13年9月 末	13年12月 末	対12年度 末
米ドル	94	98	105	11円安
ユーロ	121	132	145	24円安

13

次に、バランスシートについてご説明します。

2013年12月末時点の資産は、現金及び現金同等物の増加や為替の円安影響により、3月末時点と比べ1,817億円増の3兆2,413億円となりました。

負債は、社債及び短期借入金が増加したことなどにより、92億円増の1兆440億円となりました。

株主資本は、1,587億円増加し2兆276億円となりました。

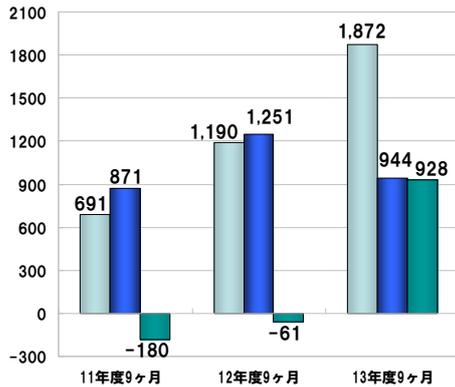
流動比率は、前期末に比べ16.3ポイント増の302.1%、負債比率は3.9ポイント減の51.5%、株主資本比率は1.5ポイント増の62.6%となり、資産の流動性及び資本構成の安定性をともに維持しております。

キャッシュ・フロー

(単位:億円)

- 営業活動によるキャッシュ・フロー
- 投資活動によるキャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー

(単位:億円)



	11年度 9ヶ月	12年度 9ヶ月	13年度 9ヶ月
四半期純利益	337	406	775
減価償却費	1,079	1,026	1,043
受取債権の増(-)減(+)	-160	385	244
棚卸資産の増(-)減(+)	-384	-178	-1
営業債務の増(+)-減(-)	-183	-308	-123
未払法人税等他負債の増(+)-減(-)	-252	-307	-84
その他	254	166	18
営業活動によるCF	691	1,190	1,872
設備投資	-742	-669	-574
ソフトウェアの購入	-143	-132	-166
有価証券・投資有価証券等の 売却・購入	222	95	-24
その他	-208	-545	-180
投資活動によるCF	-871	-1,251	-944
フリー・キャッシュ・フロー	-180	-61	928
営業活動によるCF+設備投資	-51	521	1,298

14

続いて、キャッシュ・フローについてご説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、四半期純利益の増加などにより、1,872億円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資に伴う有形固定資産の購入などにより、944億円の支出となりました。

この結果、フリー・キャッシュ・フローは、928億円のプラスとなりました。

以上で、2013年度第3四半期決算の説明とさせていただきます。

2013年度 連結業績予想 (2014年1月30日時点)

(単位:億円)

	2012年度	2013年度 (前回予想)	2013年度 (修正予想)	対前回予想	対前年度
売上高	22,147 100.0%	23,500 100.0%	24,000 100.0%	500 +2.1%	1,853 +8.4%
営業利益	1,141 5.2%	1,400 6.0%	1,400 5.8%	-	259 +22.7%
税金等調整前 当期純利益	1,192 5.4%	1,400 6.0%	1,550 6.5%	150 +10.7%	358 +30.0%
当社株主帰属 当期純利益	543 2.5%	700 3.0%	800 3.3%	100 +14.3%	257 +47.4%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	112.65円	145.27円	166.01円	20.74円	53.36円
為替 :米ドル :ユーロ	83円 107円	97円 127円	100円 134円	3円安 7円安	17円安 27円安

* 2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

* なお、第4四半期の為替レートは、米ドル:103円、ユーロ:140円を想定しております。

15

ここからは、2013年度の業績予想について、ご説明いたします。

事業環境を見ますと、為替は円安傾向が続いており、世界経済にも回復の兆しが出てきました。

当社も為替の円安が想定以上に進んでいることや、一部の事業が想定を上回って推移していることから、業績を一部上方修正いたします。

売上高は、当社の成長の柱の一つであるメディカルシステムやドキュメントなどが好調に推移していることや、為替円安の効果などから、前年比8.4%増の2兆4,000億円に修正いたします。

営業利益については、これまで全体的に想定を上回るペースで遂行してはおりますが、これを機に医薬品の研究開発費の前倒しや、デジタルカメラの損益改善施策を実施していくため、従来の1,400億円を据え置きいたします。

為替差損益が改善したことなどにより、税金等調整前当期純利益は、前年比30.0%増の1,550億円、当社株主帰属当期純利益は前年比47.4%増の800億円に上方修正いたします。

なお、第4四半期の為替レートはドル円を103円、ユーロ円を140円で想定しております。

80th
Anniversary

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>

以上、2013年度第3四半期および2013年度の見通しについて、ご説明いたしました。
ご静聴いただき、ありがとうございました。

2013年度第3四半期 決算説明会

参考資料

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
売上高	5,496 100.0%	6,001 100.0%	505 +9.2%	16,112 100.0%	17,744 100.0%	1,632 +10.1%
営業利益	231 4.2%	422 7.0%	191 +82.9%	654 4.1%	996 5.6%	342 +52.4%
税金等調整前 四半期純利益	298 5.4%	517 8.6%	219 +73.1%	628 3.9%	1,142 6.4%	514 +81.7%
当社株主帰属 四半期純利益	183 3.3%	310 5.2%	127 +68.9%	288 1.8%	625 3.5%	337 +116.6%
為替 :米ドル	81円	101円	20円安	80円	99円	19円安
:ユーロ	105円	137円	32円安	102円	132円	30円安

*営業利益 増減要因(9ヶ月 対前年度) 為替: +301億円、原材料: -15億円

18

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	927	1,017	90 (+9.7%)	2,594	2,781	187 (+7.2%)
インフォメーション	2,118	2,232	114 (+5.4%)	6,166	6,711	545 (+8.8%)
ドキュメント	2,451	2,752	301 (+12.3%)	7,352	8,252	900 (+12.2%)
合計	5,496	6,001	505 (+9.2%)	16,112	17,744	1,632 (+10.1%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	-23 [-2.5%]	39 [3.8%]	62 (黒字化)	-39 [-1.5%]	-15 [-0.5%]	24 (赤字縮小)
インフォメーション	179 [8.4%]	217 [9.7%]	38 (+21.0%)	424 [6.9%]	535 [8.0%]	111 (+26.2%)
ドキュメント	162 [6.6%]	247 [8.9%]	85 (+52.7%)	524 [7.1%]	709 [8.5%]	185 (+35.3%)
全社/連結調整	-87	-81	6	-255	-233	22
合計	231 [4.2%]	422 [7.0%]	191 (+82.9%)	654 [4.1%]	996 [5.6%]	342 (+52.4%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。 19

<当スライドは配付資料です>

3Q（3ヶ月）セグメント別 ハイライト

■ イメージング ソリューション

- インスタントカメラやポストカードの販売が好調に推移し、フォトイメージングの売上が増加。
- レンズ交換式プレミアムカメラ「FUJIFILM X-E2」の販売が好調に推移。また、高級機種のリニアップを更に拡充。
- 光学デバイスはスマートフォン用カメラモジュールの販売が引き続き好調。

■ インフォメーション ソリューション

- メディカルシステム・医薬品は堅調に推移。ライフサイエンスでは新・美白スキンケアシリーズ「アスタリフトホホワイト」の販売が好調。
- フラットパネルディスプレイ材料は、一部メーカーにおける生産調整の影響で、ブレンタック・VAフィルムの売上が想定を下回るが、WVフィルムは想定を上回って着地。
- グラフィックシステムは独ハイデルベルグ社とデジタル印刷市場のインクジェットプリンティング分野において業務提携する基本合意を締結。

■ ドキュメント ソリューション

- 国内、アジア・オセアニア地域、米国ゼロックス社向け輸出のいずれも増収。
- 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、製造原価改善および経費効率化が寄与したことにより、営業利益も対前年で増益。
- 11月よりベトナム新生産拠点(富士ゼロックスハイフォン)の稼働を開始。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
フォトイメージング	537	631	94 (+17.5%)	1,496	1,634	138 (+9.2%)
電子映像	262	225	-37 (-14.2%)	729	630	-99 (-13.6%)
光学デバイス	128	161	33 (+25.9%)	369	517	148 (+40.0%)
光学・電子映像	390	386	-4 (-1.1%)	1,098	1,147	49 (+4.4%)
合計	927	1,017	90 (+9.7%)	2,594	2,781	187 (+7.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
イメージング	-23 [-2.5%]	39 [3.8%]	62 (黒字化)	-39 [-1.5%]	-15 [-0.5%]	24 (赤字縮小)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

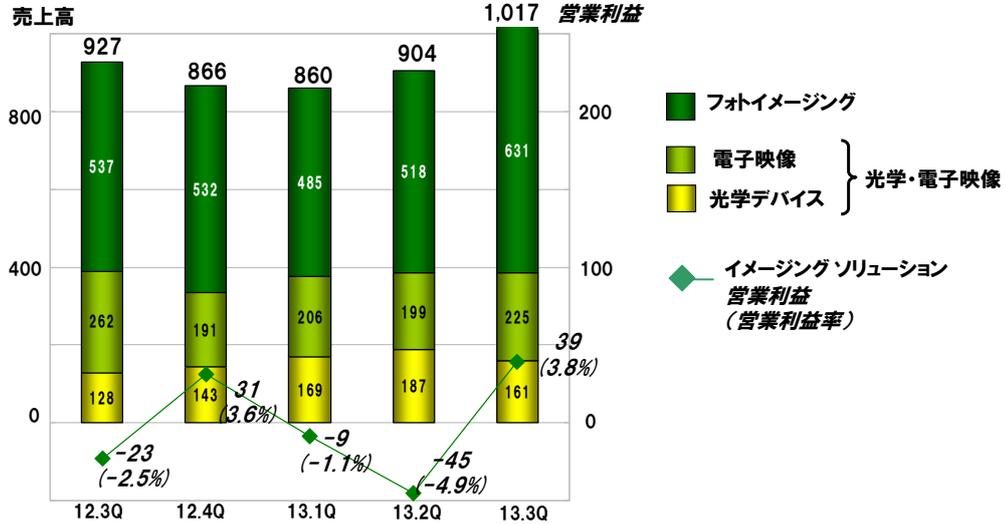
21

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ イメージング ソリューション

(単位:億円)



*セグメント間取引消去後

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューション からイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
ヘルスケア	793	879	86 (+10.9%)	2,296	2,598	302 (+13.2%)
グラフィックシステム	604	687	83 (+13.8%)	1,772	2,043	271 (+15.3%)
フラットパネル ディスプレイ材料	442	338	-104 (-23.6%)	1,190	1,090	-100 (-8.4%)
記録メディア	103	112	9 (+8.0%)	295	331	36 (+12.0%)
産業機材/電子材料他	176	216	40 (+23.0%)	613	649	36 (+5.9%)
合計	2,118	2,232	114 (+5.4%)	6,166	6,711	545 (+8.8%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
インフォメーション	179 [8.4%]	217 [9.7%]	38 (+21.0%)	424 [6.9%]	535 [8.0%]	111 (+26.2%)

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。
*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組織換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

23

<当スライドは配付資料です>

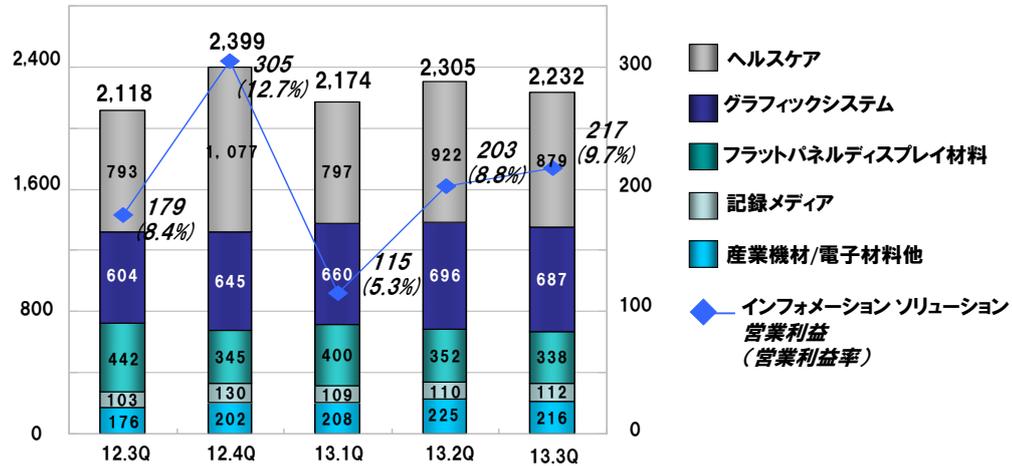
セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ インフォメーション ソリューション

(単位:億円)

売上高

営業利益



*セグメント間取引消去後

*産業機材とグラフィックシステムの一部事業の組換えにより、2012年度の数字もリスタートしています。

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーション ソリューションからイメージング ソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

3Q/9ヶ月 業績

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)

売上高	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
オフィスプロダクト	1,193	1,259	66 (+5.5%)	3,654	3,836	182 (+5.0%)
オフィスプリンター	367	458	91 (+24.6%)	1,156	1,333	177 (+15.3%)
プロダクションサービス	342	376	34 (+9.9%)	1,056	1,128	72 (+6.8%)
グローバルサービス	319	360	41 (+12.8%)	827	1,095	268 (+32.4%)
その他	230	299	69 (+30.9%)	659	860	201 (+30.6%)
合計	2,451	2,752	301 (+12.3%)	7,352	8,252	900 (+12.2%)

*セグメント間取引消去後

(単位:億円)

営業利益 [営業利益率]	3Q			9ヶ月		
	2012年度	2013年度	対前年度	2012年度	2013年度	対前年度
ドキュメント	162 [6.6%]	247 [8.9%]	85 (+52.7%)	524 [7.1%]	709 [8.5%]	185 (+35.3%)

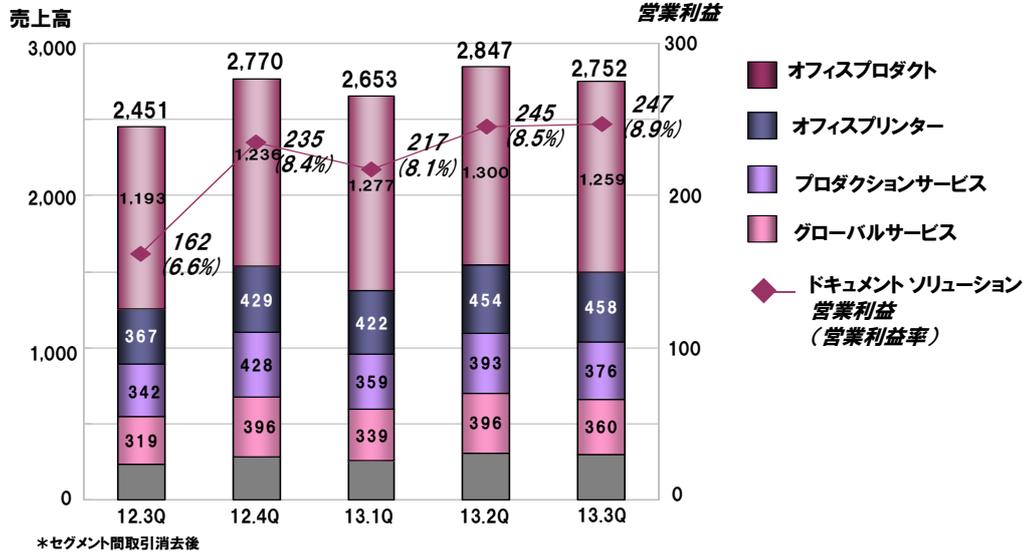
25

<当スライドは配付資料です>

セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

■ ドキュメントソリューション

(単位:億円)



<当スライドは配付資料です>

国内・海外別連結売上高

(単位:億円)

	2012年度 9ヶ月		2013年度 9ヶ月		対前年度
	構成比 (%)		構成比 (%)		
日本	45.0%	7,256	41.3%	7,322	66 (+0.9%)
米州	18.0%	2,895	18.5%	3,284	389 (+13.4%)
欧州	11.5%	1,860	12.0%	2,139	279 (+15.0%)
内、中国	9.2%	1,475	11.0%	1,951	476 (+32.3%)
アジア他	25.5%	4,101	28.2%	4,999	898 (+21.9%)
海外	55.0%	8,856	58.7%	10,422	1,566 (+17.7%)
合計	100.0%	16,112	100.0%	17,744	1,632 (+10.1%)

27

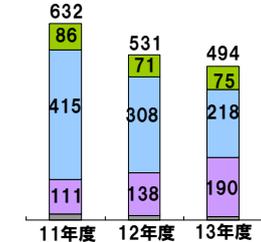
<当スライドは配付資料です>

設備投資、減価償却費

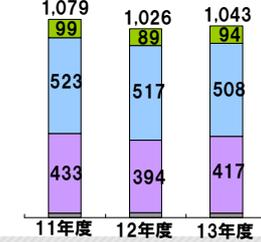
- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

設備投資(9ヶ月)



減価償却費(9ヶ月)



年度	3Q			9ヶ月			通期		
	2011	2012	2013	2011	2012	2013	2011	2012	2013 (予想)
イメージング	31	22	20	86	71	75	128	99	-
インフォメーション	103	75	77	415	308	218	562	399	-
ドキュメント	36	55	113	111	138	190	193	248	-
コーポレート	6	5	3	20	14	11	26	21	-
設備投資 ※	176	157	213	632	531	494	909	767	800
イメージング	34	35	34	99	89	94	146	133	-
インフォメーション	179	170	176	523	517	508	725	718	-
ドキュメント	154	141	144	433	394	417	575	531	-
コーポレート	8	11	9	24	26	24	32	33	-
減価償却費	375	357	363	1,079	1,026	1,043	1,478	1,415	1,400
有形固定資産の 減価償却費 ※	243	235	228	695	665	653	966	934	900

※ ドキュメントソリューション部門のレンタル機器を除く。

* 2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。 28

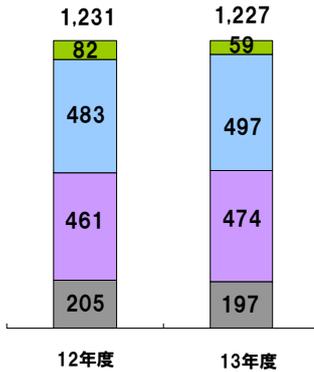
<当スライドは配付資料です>

研究開発費、販売費および一般管理費

- イメージングソリューション
- インフォメーションソリューション
- ドキュメントソリューション
- コーポレート

(単位:億円)

研究開発費(9ヶ月)



年度	3Q		9ヶ月		通期	
	2012	2013	2012	2013	2012	2013 (予想)
イメージング	25	18	82	59	105	-
インフォメーション	158	150	483	497	675	-
ドキュメント	161	157	461	474	634	-
コーポレート	69	67	205	197	268	-
研究開発費	413	392	1,231	1,227	1,682	1,700
<売上高比>	7.5%	6.5%	7.6%	6.9%	7.6%	7.1%
販売費及び一般管理費	1,452	1,540	4,347	4,599	5,682	-
<売上高比>	26.4%	25.7%	27.0%	26.0%	25.6%	-

*2013年度1Qに行われた組織変更に伴い、光学デバイスをインフォメーションソリューションからイメージングソリューションへ変更しており、2012年度の数字もリスタートしています。

<当スライドは配付資料です>

為替、原材料価格、人員

為替

(単位:円)

	2012年度						2013年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期 (予想)
米ドル	80	79	81	80	93	83	99	99	101	99	100
ユーロ	103	98	105	102	122	107	129	131	137	132	134

*2013年度 営業利益 為替感応度 米ドル:11億円、ユーロ9億円

原材料価格 (平均)

(単位:千円/kg)

	2012年度						2013年度				
	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	9ヶ月	通期 (予想)
銀	79	71	83	78	91	81	78	68	68	72	72

人員

(単位:人)

	2012.12末	2013.3末	2013.6末	2013.9末	2013.12末
連結	81,542	80,322	79,965	79,837	80,113

30

<当スライドは配付資料です>

パイプライン

開発番号	薬効	剤形	地域	開発段階	備考
T-705	抗ウイルス剤	経口	日本 米国	承認申請中 PⅢ実施中	
T-3811	ニューキノロン系合成抗菌剤	経口	中国	PⅢ終了、申請準備中	国内はジェニナック錠として上市済み
T-2307	抗真菌剤	注射	米国	PⅠ実施中	
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療剤	経口	米国 日本	PⅡ実施中 PⅠ終了	
T-4288	マクロライド系抗菌剤	経口	日本	PⅠ実施中	
バイオ ITK-1	抗癌剤(前立腺癌)	注射	日本	PⅢ実施中	
FF-10501	抗癌剤(血液癌)	経口	日本 米国	PⅠ実施中 PⅠ準備中	
バイオ FF-21101	抗癌剤(難治性固形癌)(Armed抗体)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	
FF-10502	抗癌剤(難治性固形癌)	注射	米/欧/日	非臨床試験実施中	

※持分法適用会社の協和キリン富士フィルムバイオロジクスのFKB327(アダリムマブバイオシミラー)は、計画通り2013年4月に欧州でPⅠを開始。

<当スライドは配付資料です>

参考情報

富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/index.html>

IRイベント資料

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/ir_events/business_presentations/index.html

・事業説明会資料

- 2013年 11月 メディカルシステム事業説明会
- 2013年 11月 医薬品事業説明会

・カンファレンス資料

- 2013年 12月 野村インベストメントフォーラム 2013

富士フィルムってどんな会社？

<http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/individual/guidance/index.html>

富士フィルムホールディングス アニュアルレポート2013

http://www.fujifilmholdings.com/ja/investors/annual_reports/2013/index.html

32

<当スライドは配付資料です>

80th
Anniversary

FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<http://www.fujifilmholdings.com>